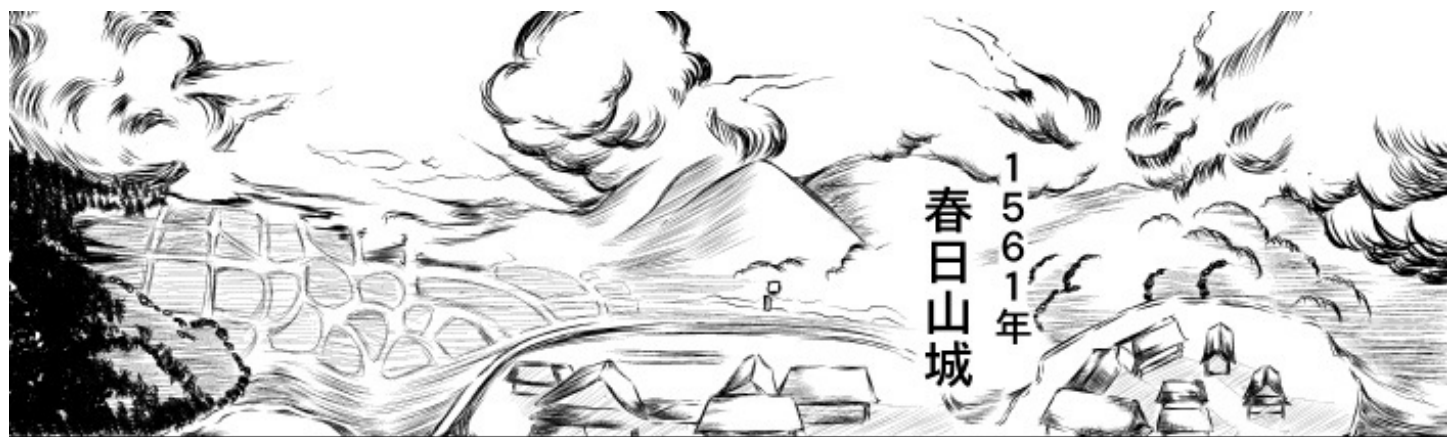




この物語はフィクションです





1561年
春日山城

甘粕景持

かゝつ！
うめえ！
もつと酒を
持つて来い！

中条藤資

まあ良いではないか
こうやって飲めるのも
これが最後かもしれぬ

おいおい

宇佐美定満

それは何か
俺が次の戦で死ぬと
言いたいのか？

ふっ！
酔いが回っても
頭は回っているようだな

長尾政景

景気づけのための
席とはいえ
少々飲みすぎでは
甘粕殿？

なに〜っ！？

新発田重家

色部勝長

皆の者
御前の手前である
その辺にしたまえ

齊藤朝信

まあ
甘粕殿ならば
心配あるまい

日頃
俟約しているのだから
今日ぐらいいは
大目に見ようではないか

直江景綱

ふっ
その分
働いてもらいますよ?

承知の事よ!!

俺が武田の首をふんどつて
勝鬨を盛大にあげてやらあー!

ふん
若造がそう粋がるな

なんだと!?

まあ
甘粕殿の言うことも
あながち本当のことに
なるかもしれませぬぞ

宇佐美殿
ご冗談を

上杉政虎

のちの上杉謙信である

ふははははっ!

…殿?

とつとの?

おもしろい!
おもしろいぞ!!









北条綱成

皆の者
俺に続け!!



北条めつもらぬ
横槍いれおって

殿!
いかに我らとて
武田に加えて
北条は...
わかっておる!

撤退だ!!
左翼陣を後方に下がらせ
右翼は武田をひきつけつ
殿は...甘粕と柿崎に!

ぶつくさ言っておらんで
体を動かせ!!

殿のご判断に相違あるまい
貴様も上杉の家臣なら

それはわかつとる!
何故今なのだ!

何だ!?
撤退の合図だ